

SGH「アジア探究～文系」レポート9

7月19日

地域研究コンソーシアム(JCAS) オンデマンド=セミナー
京都大学地域研究統合情報センター 西芳実准教授 講演

「災害対応の国際協力を考える」

～2004年スマトラ島沖地震・津波被災地の現場から～

7月19日(土)、J C A S オンデマンド=セミナーと共催で、西芳実先生の大変興味深いご講演に接することができました。会場となった稲盛財団記念館は5月にも利用させていただいた研究施設です。



スマトラ島アチェに滞在されていた西先生は、30年に及ぶ紛争と、その中で発生した地震・津波被災地の復興の様子について、

「微笑んでいる」被災者に対する支援者側の戸惑い

内戦を経験したアチェの人々にとって、以前の状態に戻る意味での復興・復旧が何を意味するか

遺体無きままの「弔い」を強いられた人々からの、様々な様式のメッセージ

など、貴重なご経験を語ってくださいました。

技術があれば被災者支援はいくらでもできる、というのは間違っていたようです。現実を踏まえて被災者のメッセージを読み解き、コミュニケーションを積み上げることが以下に大切な、地域研究やフィールドワークの本質を理解する機会にもなりました。

